

JAEF REPORT

令和8年1月5日

年4回発行(1,4,7,10月)

(公財)日本自動車教育振興財団 活動報告

【目次】

- ◆ 新年のご挨拶
- ◆ 18県で教材贈呈式、交流促進活動を実施
- ◆ 各部会・委員会にて令和7年度上期活動状況を報告

- ◆ 令和8年度 講師派遣募集開始
- ◆ 29道府県(72件)の研修会に講師を派遣

新年のご挨拶

財団運営

新年おめでとうございます。旧年中は当財団に対し格別のご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

令和8年は丙午（ひのえうま）の年にあたります。火の勢いを表す「丙」と、駆ける力を象徴する「午」が重なるこの年は、古来より“勢いが高まる年”とも言われてきました。自動運転技術の開発や動力源の多様化など、自動車に纏わる大きな動きは今年も更に加速するものと思われます。このような環境において、将来の交通社会・自動車社会を担う高校生に対する有効な教育支援を行うことの重要性をあらためて実感しております。

当財団では、令和5年度より基幹事業である自動車技術教育の抜本的強化を進めてまいりました。自動車技術教育用教材の提供校、自動車技術講師派遣とも、令和5年度以降3年連続で過去最高の成果を挙げる見込みです。また、令和7年度からは自動車整備技術に関する講師派遣メニューに「自動車整備の基礎」を新設しました。自動車整備士の仕事内容や工具の適切な使い方を学べる同メニューは、たいへん人気を博しており、8つある自動車技術講師派遣メニューの中で最多の申し込みをいただいています。

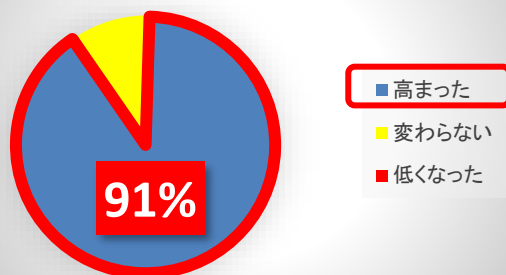


◀ 講師派遣 新メニュー
「自動車整備の基礎」
長野県下伊那農業高等学校での様子

令和7年度からは、前述のような「教材の提供校数」、「講師派遣の件数」といった“量的評価”のみならず、“質的評価”を行うべく活動効果を測定する取り組みを始めました。交通安全講習への講師派遣、および自動車技術講師派遣それぞれの受講生徒に対するアンケートがそれにあたります。受講生徒自身からの回答を通じ、それらが有用な機会となっているかを把握することが目的です（従来は、受講校の担当教員からの報告書にて満足度等を確認）。

以下にて、当アンケート結果の一部をご紹介します。交通安全講師派遣では、「講習内容の理解」、「安全意識の高まり」に関する好意的回答が共に9割を超えています。また、自動車技術講師派遣については、「自動車への関心度」、「自動車関連への進学・就職希望度」を受講の前後で比較しています。「自動車への関心度」の好意的回答は、受講前の62%が受講後に89%に大きく向上しました。「自動車関連への進学・就職希望度」は、同48%から同55%へと高まっています。【各数値は上期累計実績、10-12月期実績につきましては当レポートp.4をご参照ください。】

交通安全に対する意識は変わりましたか



▲交通安全 講師派遣 アンケート結果より

このように、各活動が高校生に好影響をもたらしていることが確認されています。これらの成果は、ひとえに講師派遣事業に携わっていただいている各自動車関連団体・企業の皆様の多大なるご協力の賜物と存じます。あらためまして御礼申し上げます。

昨今の物価高などの影響により、当財団の事業運営に係るリソースに制約が生じつつありますが、今後も知恵を活用しながら、効果的な支援活動の実践に尽力してまいります。教育関係団体の皆様、自動車関係団体・企業の皆様には、倍旧のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

INFORMATION

1～3月予定

- 自動車教材有効活用表彰の公募開始 1月
- 9都県の研修会(10件)に講師を派遣 1月～3月
- 各部会・委員会を開催 2月
- 第36回理事会を開催 3月

◆ 18県で教材贈呈式、交流促進活動を実施

令和7年10月～12月

財団は、令和7年度の技術教育支援事業の一環として、提供対象の18県にて、当該地域過去最多となる118校に自動車技術教育用教材を提供することとしている。これにあたり、各自動車教育推進協議会*（以下、推進協議会）と共催で「自動車技術教育用教材贈呈式」（以下、贈呈式）を開催した。

従来より贈呈式と共に、地域に密着した自動車教育を推進していくための情報交換の場として教育懇談会（意見交換会）を行ってきた。今年度も昨年度に引き続き、参加される先生方を始めとする教育関係者のみなさんに、自動車整備の職場環境に対する理解を深めていただくことを目的として、一部地域で自動車販売会社にて開催（右表内、赤字部参照）。贈呈式・教育懇談会に加え、サービス工場・店舗など各施設の見学も実施した。同見学会では、整備士になった教え子との再会で、大いに盛り上がった場面もあった。



▲施設見学で教え子と再会した様子
（写真左：10/9 山梨トヨタ自動車）
（同 右：11/27 トヨタカローラ愛媛）

各施設を見学された方々からは、以下のご意見・反響があった。

「労働環境を改善し、働きやすい環境を提供しているディーラーを見習う必要がある。実習棟にエアコンが無く、劣悪な環境の高校がたくさんある。生徒から選ばれる高校として、環境整備は必須と再認識した」（山梨）

「整備士の仕事や職場環境を知れば、興味を持つ生徒が増えると思う。講師派遣の活用なども検討し、自動車整備を目指す生徒を増やしていきたい」（高知）

「教師として卒業生が頑張っている姿を見るのが一番うれしい。従業員を大事にする会社の下で成長しているのが分かった。今の生徒達にも伝えたい」（愛媛）

【令和7年度 教材贈呈式 開催実績】

地区	開催日	贈呈式会場
山梨	10/9	山梨トヨタ自動車 山梨日川店
香川	10/16	香川トヨタ自動車 本社
大分	10/29	レンブラントホテル大分
群馬	10/31	ホテルラシーネ新前橋
鹿児島	11/5	トヨタカローラ鹿児島 本店
高知	11/6	ネットトヨタ高知 本社
福岡	11/7	ソラリア西鉄ホテル福岡
長野	11/10	ホテルメトロポリタン長野
山形	11/11	ネットトヨタ山形 本社
佐賀	11/13	ホテルグランデはがくれ
徳島	11/17	徳島県自動車整備会館
新潟	11/26	ANAクラウンプラザホテル新潟
愛媛	11/27	トヨタカローラ愛媛 本社
宮崎	11/28	宮崎観光ホテル
沖縄	12/4	沖縄県立沖縄工業高等学校
長崎	12/10	ホテルセントヒル長崎
秋田	12/11	秋田自動車会議所
熊本	12/17	ユナイテッドトヨタ熊本 本社



▲店舗施設見学の様子
（10/16 香川トヨタ自動車）



▲サービス工場見学時の懇談の様子
（11/6 ネットトヨタ高知）



▲サービス工場見学の様子
（11/5 トヨタカローラ鹿児島）



▲管理システムの説明を受ける様子
（11/11 ネットトヨタ山形）



▲サービス工場見学の様子
（12/17 ユナイテッドトヨタ熊本）

* 各都道府県の自動車販売店協会、自動車整備振興会、軽自動車協会、日本自動車連盟支部、日本損害保険協会支部の5団体（一部の県では中古車販売店協会が参加）を中心に構成。

各部会・委員会にて令和7年度上期活動状況を報告 ……令和7年10・11月

財団は10・11月に、右表の通り事業ごとの部会や事業委員会、企画委員会を開催した。4事業とも当年度事業計画に沿ってほぼ計画通りに進捗していることが報告され、報告事項は異議なく承認された。

個別には、技術教育支援事業において、「（当部会の委員を務める先生より）講師派遣の新メニュー『自動車整備の基礎』は充実した内容で生徒にも好評」、研修事業では「生徒へのアンケート結果は、講師を派遣している団体の立場としても、非常に参考になる」、普及啓発事業については「財団が制作した良いコンテンツをあらゆる機会を使い発信していくことが重要」等の意見があった。

尚、事業委員会、企画委員会では、令和7年度上期収支実績および年間見通し、基本財産の運用状況を報告。賛助会費の収入が減少している中で、重点化・効率化を進めていることに対する理解を得た。

【部会・委員会の開催実績】

部会・委員会名	開催日
技術教育部会 （自動車技術教育支援事業）	10/14（火）
研修部会（研修事業）	10/22（水）
調査普及部会 （調査研究／普及啓発事業）	10/23（木）
事業委員会（事業総括）	11/12（水）
企画委員会（財団運営）	

令和8年度 講師派遣募集開始 ……令和7年12月

研修

財団は、令和8年度 講師派遣支援の申込要領を12月19日付で全国の高等学校（約6,000校）にFAXで案内すると共に、ウェブサイトにて申込受付ページを開設した。各校の次年度カリキュラムに盛り込んでいただけるよう、漏れなく告知し、令和7年度を上回る申し込み件数をを目指す。講師派遣の対象は各地の学校、教育委員会等が開催する研修会。

自動車技術分野では、日本自動車整備振興会連合会による協力のもと、令和7年度に新設し、受講校より好評を得ている「自動車整備の基礎」を含む8種類のメニューを用意。

交通安全分野については、令和8年4月に施行される自転車の青切符制度をはじめ、高等学校の様々なニーズに対応できるメニューを設定。

関係団体・企業の皆様には、引き続きまして専門講師派遣へのご協力をよろしくお願い申し上げます。



▲北海道富良野高等学校での講師派遣の様子（自動車技術）



▲秋田県立能代高等学校での講師派遣の様子（交通安全）

【令和8年度講師派遣メニュー】

ジャンル	メニュー	
自動車の最新技術 [講演型]	① トヨタ自動車	ハイブリッド車 について
	② 日産自動車	電気自動車 について
	③ 本田技研工業	e-HEVについて
	④ マツダ	電動化技術によるクルマの楽しさと環境の両立
	⑤ 三菱自動車	EV・PHEVを用いた持続可能な社会に向けて
自動車の整備技術 [体験型]	⑥	自動車整備の基礎
	⑦ 整備振興会	ガソリンエンジンの分解・組立
	⑧	電子制御エンジンの構造と点検・整備
環境技術	⑨ 地球温暖化防止とモビリティ技術	カーボンニュートラル化ビジネスとそれを実現させるための新技術
交通技術	⑩ 交通技術と社会のあり方	AIやSDV化で急速に実用化が進む自動運転技術と、重要度が高まる人と機械の協調運転
交通安全	⑪	自転車の違反運転の危険性を知る
	⑫ 交通安全対策	クルマから見た歩行者・自転車
	⑬	自転車を乗る前の心がまえ
	⑭ 事故への備え	交通事故のリスクと損害保険の役割
	⑮	自転車事故のリスクと損害保険の役割
	⑯ バイク実習	二輪車（バイク）の交通安全 ～高校生のためのSafety Riding～

29道府県の研修会(72件)に講師を派遣

・・・10～12月

令和7年度10～12月の講師派遣実績は、開催件数72件（前年同期差－1件）、参加者14,463名（同＋385名）といずれもほぼ前年並であった。

今年度の開催件数は12月までの累計で381件となった。過去最多となる年間の実施計画390件に対する進捗率は約98%まで達し、順調に推移している。

10～12月に派遣した全72件の分野別内訳は以下の通り。

分野	件数 (前年同期差)	対象
1)自動車技術	24 (－3)	主に工業系の生徒
2)交通安全	46 (±0)	生徒指導担当の先生並びに生徒
3)環境・交通技術	2 (＋2)	生徒指導担当の先生並びに生徒

1) 自動車技術：計24件

最新技術	20
整備技術	4

今年度新設した出前授業「自動車整備の基礎」*は、これまでの申込みが16件に達し、自動車技術メニュー全体の約3割を占め、最多となっている（12/5現在）。

実施校の生徒からは「最新の工具に触れることができた」「正しく工具を使用することの大切さを知った」との声があった。同教員からも「大変よかった。次年度も利用したい」など、好意的な評価を数多くいただいた。



▲沖縄県立宮古工業高等学校での講師派遣の様子（自動車整備技術）

*工具の種類や使い方を始め、整備業務に不可欠な基本技術を学ぶと共に、整備士への興味関心を高める内容。

2) 交通安全：計46件

ヘルメット着用の重要性	6
夜間の交通安全対策	8
ドライバー・自転車・歩行者から見た交通安全	20
交通事故のリスクと損害保険の役割	6
自転車事故のリスクと損害保険の役割	3
二輪車（バイク）の交通安全	3

実施校の教員からは「講師は分かりやすい資料を用意して、丁寧な説明だった。生徒は交通安全を自分事として捉えるようになった」など、高く評価いただいた。

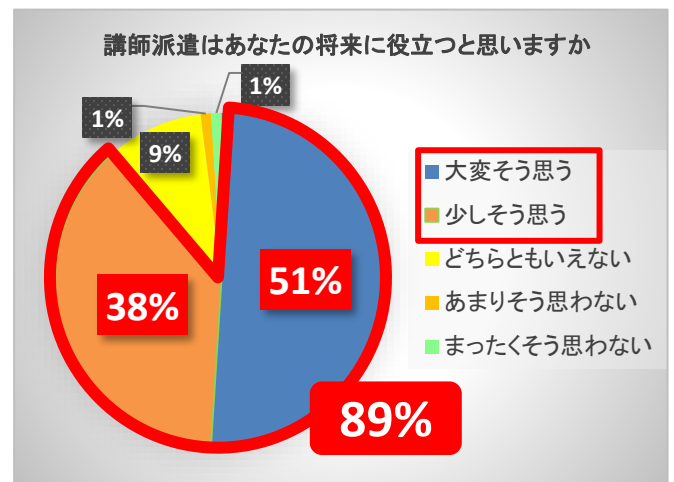


▲岐阜県立羽島高等学校での講師派遣の様子（交通安全）

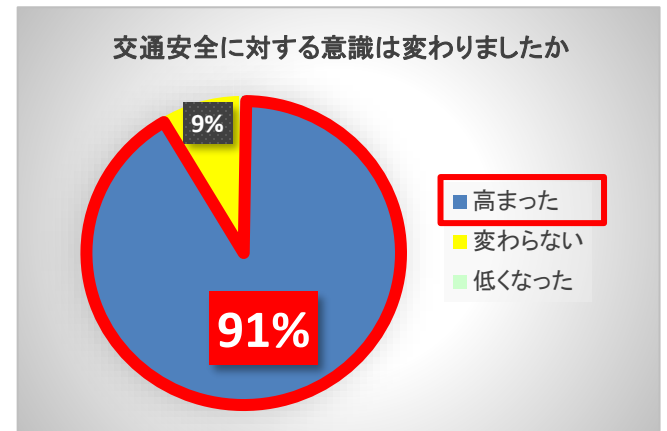
財団では、当講師派遣活動の効果を定量的に把握すべく、今年度より受講生徒を対象としたアンケートを行っている。当年度累計で計103校21,105名から回答を得て、極めて顕著な成果が確認できている。

尚10～12月実施校での「自動車技術」「交通安全」分野の主な設問に対する回答は以下の通り。

1)自動車技術：計13校361名



2)交通安全：計21校 3,201名



講師については、全72件のすべてを地元の自動車教育推進協議会メンバーにご担当いただいた。

講師派遣にご協力いただいた関係団体・企業の皆様に紙面をお借りして深謝申し上げます。